

○ 担当業務

- ・空家等対策事業
- ・地域福祉計画策定事業
- ・新規システム導入検討
- ・JR 土山駅北周辺地区再整備検討事業
- ・地域公共交通計画策定
- ・保健師の地区組織活動検討
- ・健康はりま 21 事業
(健康プラン策定・健康ポイント)
- ・広聴事業見直し支援
- ・学校と地域の連携支援
- ・障害者計画等策定事業
- ・広報委員会運営支援
(戦略的広報支援)
- ・部活の地域展開支援

○ 研修講師等

- 5月28日 宮の裏自治会「これからのまちづくり」
- 5月31日 社会教育推進委員研修
- 10月1日 播磨小学校 150 周年
- 11月8日 西部コミセン「コミュニティのあり方」
- 2月3日 播同協研究大会
パネルディスカッションコーディネーター



○ まちアドおしゃべり会

毎週1回、播磨町内にある4コミセンをまわっておしゃべり会を開催しました。「どこに相談していいかわからない」や「新しく始めたいけどどうしたらいいか」といった話が多数寄せられました。お住まいの地区以外のコミセンでも構いませんのでぜひお越しください。実施日はコミセンだよりに掲載しています。

【参加者数】

- 野添コミセン：23人
- 南部コミセン：27人
- 東部コミセン：12人
- 西部コミセン：8人
- ※各12回開催。合計48回開催。

○ 情報発信

○ 広報はりま「まちアド通信」

毎号「まちアド通信」としてコラムを掲載しています。播磨町のまちづくりに関することで起こったことや、まちアドとして大切だと思っているポイントなどをお知らせしています。



○ note で発信

note に播磨町まちづくりアドバイザーとして情報を発信しています。広報に書ききれなかったことなどはこちらから。



播磨町まちづくり アドバイザーとは

播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズにより細かく対応するため、令和2(2020)年度からまちづくりの専門職員として「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援し、地域力の向上を図ってまいります。

播磨町まちづくりアドバイザー（播磨町役場協働推進課内）
〒675-0182 兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号
電話番号：079-435-2364 メール：machiad@town.harima.lg.jp

まちアド 2023 Annual Report

播磨町まちづくりアドバイザー 令和5年度活動報告書



野添コミセンでの意見交換の様子

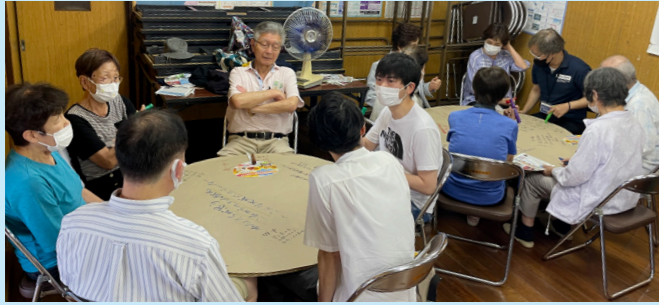
播磨町は2022年に町制60周年をむかえ、協働のまちづくり宣言を発出しました。2023年は宣言から1年が経ち小さな変化が各所で見てとれた1年だったように思います。例えば、行政計画の策定過程では、誰でも参加できる意見交換の場が用意されることが増えました。また地域でも話し合う（対話する）ことが増えているように思います。対話することの意味は2つあると思っています。一つは新しい出会いがあること、もう一つはなにかのきっかけになることです。最近、播磨町内で新しい活動がうまれたり、新しいつながりができたという話を聞く機会が増えたように思います。つながりによるまちづくりでは、わかりやすい変化は起きにくいですが、でも対話を続けることで未来の播磨町が少しずつ変わっていく可能性があると思っています。これからもこどもからおとなまでみんなで話し合える場を作っていきたいと思っています。

01 楽しい話し合いを積み重ねる 多様な町民での対話の場

2023年度はこれまで以上に地域や各種団体での対話の場が拡がりました。対話の場を拡げていくことで、地域での対話の内容や質がどんどん高まっています。

土山駅北えんたく会議

JR 土山駅北側のまちづくりについて、地元のみならずを中心に「どんなまちにしたいか」もついて話し合いを重ねました。話し合った内容はコンセプトブックとしてまとめました。



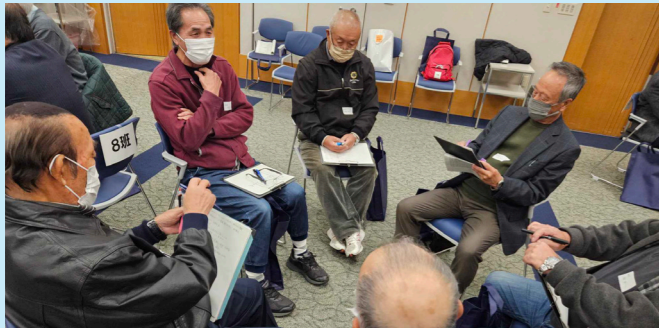
播同協研究大会パネルディスカッション

第45回播磨町人権・同和教育研究協議会研究大会にて、幼稚園・小学校の教員、シニアクラブ、自治会等の登壇者によるパネルディスカッションのコーディネートをおこないました。



東播磨地区自治会研究会

11月29日に開催された東播磨地区自治会研究会にて、市町を超えた自治会役員での意見交換の場をつくりました。自治体を超えて話す機会は減多になく、貴重な機会となりました。



播磨町の地域公共交通を話し合う

播磨町の公共交通について話し合おう～みんなで知り、育む 地域の公共交通～として10月7日14日に合計4回の対話の場を設けました。57名の参加者としてこれからの地域公共交通について検討しました。



その他の対話の場づくり

地域福祉計画ワークショップ (10/15) / まちづくり講演会 (1/21) / 青少年問題協議会 (2/8) / 民生児童委員定例会 等

職員もファシリテーターに

対話の場をつくれる職員育成

播磨町役場職員も対話の場をつくれるように、ファシリテーター研修を基礎編と応用編にわけて実施しました。研修では、良い話し合いをつくるために意識することはなにかをロールプレイをしながら進めました。

【研修内容】

- ・基礎編 11月17,22日：参加者46人
- ・応用編 11月24日：参加者8人



02 自分たちのまちは自分たちでつくる 地域コミュニティを育む取組

播磨町内には4つのコミセンがあります。コミセンが地域活動の拠点であることから、各コミセンをまわりながら地域コミュニティに関する取組を進めました。また単位自治会の役員会などに参加しながらこれからの自治会運営についても一緒に考えました。

野添コミュニティ意見交換会

野添コミセンを運営する野添コミュニティ委員会は活動しやすい体制になるように組織の見直しを進めています。最近では関わる人が増えたことで、新たな活動がうまれはじめています。この意見交換はこれからの野添地区のコミュニティ活動について多様な町民と一緒に考える場でした。「コミセンが若い人が地域に関わるきっかけになっている」や「コミセンに関わって人脈が増えた」といった意見がでていました。



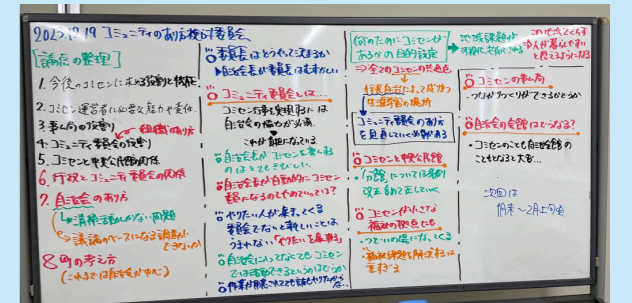
意見交換会の様子

コミュニティのあり方検討委員会

2022年度から継続している播磨町コミュニティのあり方検討委員会にて議論の可視化などをおこないました。ここでは、コミセンや自治会などこれからのコミュニティについて専門家を交えて議論を重ねています。

コミュニティのあり方検討委員会

- ・会議開催：計4回
- ・内部会議（協働連携会議：計3回）



あり方委員会での議論の可視化

03 対話を通じて人がつながる 多様なつながりづくり

学校、市民団体、コミセンなどいろいろな団体や活動をつなぐコーディネートを担当しました。新たな中学校部活や大学生の関わりが生まれはじめています。

【主な取組】

- ・播磨小学校、播磨南小学校コミスクワークショップ
- ・てるてるはりまビジョンづくりワークショップ
- ・のぞえ花火大会運営サポート
- ・県立大学学生のフィールドワーク企画
- ・中学校部活の地域展開支援



播磨小学校教員での地域との連携を考えるワークショップ

04 専門家と町民の議論 行政計画の策定サポート

今年度はパブコメや意見交換会など計画策定の終盤に多く関わりました。主に議論の可視化、専門委員との協議などを担い、計画と計画に横串が入るようにサポートしました。

【関わった計画】

- ・第3次はりま健康プラン
- ・第1期地域福祉計画
- ・第7期障害者計画
- ・播磨町地域公共交通計画



はりま健康プラン策定にあたっての委員での話し合い